

## 第 章 学術情報研究センター

### 1 . 理念・目的

学術情報研究センターは、奈良教育大学の教育と研究に関わる学術情報・資料の収集、利用及び活用の促進を目的として（奈良教育大学学術情報研究センター規則第2条）、旧附属図書館、情報処理センター及び教育資料館の機能を統合し、平成 18(2006)年 3月に設置された。

学術情報研究センターは、この目的を達成するために、図書館部門、情報基盤部門、研究開発部門の3部門で構成し、図書館、情報館及び教育資料館の3施設を有している。

図書館部門は、学術図書、教養図書、参考図書等を揃え、文献検索及び文献所在調査等の調査・研究の支援機能を持ち、その中心的役割を担っている施設として「図書館」があり、さらに、我が国の学制発足以降における奈良県下の初等中等教育に関する資料に教育関係資料の収集、調査研究を行い、伝統ある教育資料の保管と展示の役割を担っている施設として「教育資料館」がある。

情報基盤部門は、学術情報の取扱いに必要な情報基盤の運用管理について中心的な役割を担っており、学内 LAN の管理・運用をはじめ学内における共同利用パソコンの設置など、教育・研究のための情報システムに関する共同利用の場として「情報館」がある。

研究開発部門では、これらの学術・情報基盤を中心に情報システムを活かした教育を研究する機能を持っている。

これら3部門3施設の有機的な連携により、本学における教育と研究の要として教員・学生・地域に広く活用され、本学の知的活動の中心の場として役割を果たしている。

### 2 . 現状

#### (1) 組織

学術情報研究センターは、図書館部門、情報基盤部門、及び研究開発部門の3部門により構成されている。

#### 図書館部門

図書、教育資料等の学術情報の収集、管理、提供及び展示を行う。

#### 情報基盤部門

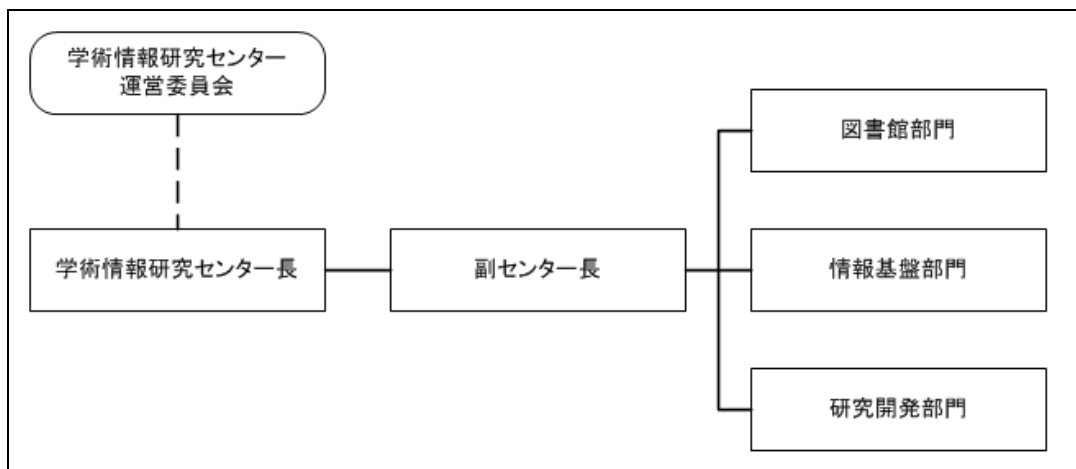
学術情報の取り扱いに必要な情報基盤の運用管理を行う。

#### 研究開発部門

学術情報の収集・管理・提供・展示及び情報基盤の運用に関する研究を行う。

・ 学術情報研究センター

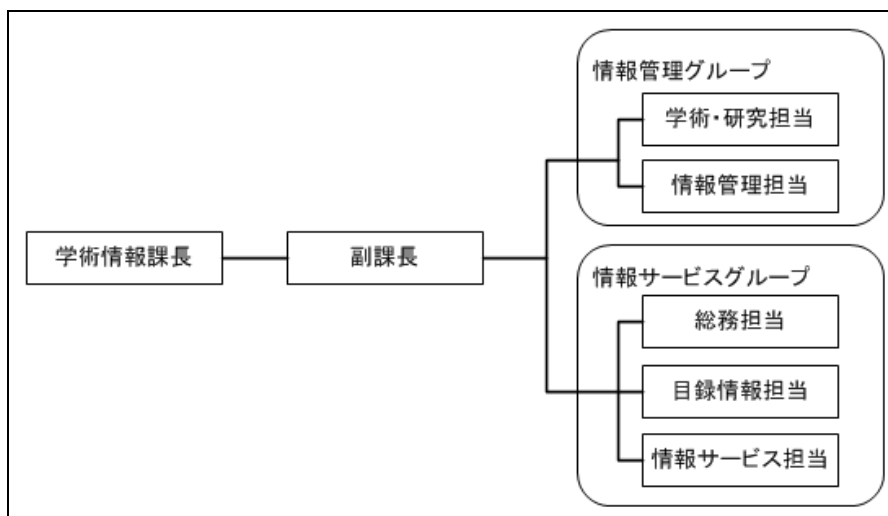
学術情報研究センター 組織図



また、事務組織としての学術情報課の構成は、次のとおりである。

課長	1名		
副課長	定員1名		
学術・研究担当	定員1名		
情報管理担当	定員1名	事務補佐員	1名
総務担当	(副課長兼務)		
		事務補佐員	1名
		事務補佐員	1名(教育資料館担当)
		事務補佐員	1名(学術リポジトリ担当)
目録情報担当	定員1名		
情報サービス担当	定員2名	事務補佐員	1名

学術情報課 組織図



## (2) 施設・設備

学術情報研究センターの施設としては、図書館、情報館、及び教育資料館がある。設備については、それぞれ次のとおりである。

### 1) 図書館

施設は、鉄筋コンクリート造3階建[昭和41(1966)年度新築(1,041 m<sup>2</sup>)、昭和52(1977)年度増築(1,348 m<sup>2</sup>)、平成14(2002)年度玄関増築・自動扉設置(12 m<sup>2</sup>)]で、総延床面積は2,401 m<sup>2</sup>、その内訳は、サービススペース 868 m<sup>2</sup>、書庫スペース 957 m<sup>2</sup>、事務スペース等 277 m<sup>2</sup>、その他 299 m<sup>2</sup>となっている

地階(129 m<sup>2</sup>)は開架書庫。1階(1,811 m<sup>2</sup>)には、閲覧室、グループ学習室(2室)、カウンター、参考図書コーナー、雑誌コーナー、新聞コーナー、情報検索コーナー、大型本コーナー、文庫本室、AVコーナー、複写コーナー、えほんのひろば、パソコン室、開架書庫、閉架書庫、資料室及び事務室等。2階(262 m<sup>2</sup>)には、閉架書庫、センター長室及び電算機室。3階(199 m<sup>2</sup>)は閉架書庫である。

主な設備としては、次のとおりである。

#### 自動扉

正面玄関に自動扉を設置している。図書館は正面玄関から閲覧室までフラットな構造であり、自動扉と相まって車椅子でも容易に入館が可能となっている。

#### 入退館管理システム

正面玄関を入ったところに入退館管理システムを設置し、入館者のチェックを行っている。詳細な図書館利用者を詳細に把握することができ、退館時にはブックディテクションを通過することにより、貸出処理を終えていない図書館資料の無断持ち出しを防止している。

#### 図書館自動貸出システム

カウンター横に図書館自動貸出システムを設置し、図書館利用者が図書館員の手続きを経ることなく、自分で図書を借り出すことができるようにしている。

#### 情報検索用機器

図書館システム検索専用端末(OPAC)4台、インターネット接続共同利用パソコン33台、ネットワーク型検索用端末3台、スタンドアローン型CD-ROM等検索用端末1台が設置されている

#### 視聴覚機器

1階のAVコーナーには視聴覚機器としてブースを3台設置しており、ビデオテープ、CD、DVD等のソフトが利用できる。また、放送大学の受信設備を設置し、放送大学の講座を視聴することができる。その他にマイクロフィルム等を利用するためのマイクロリーダープリンター1台がある。

## ・ 学術情報研究センター

### グループ学習室

数人のグループで相談や討議をしながら学習するための部屋として、2室設けている。

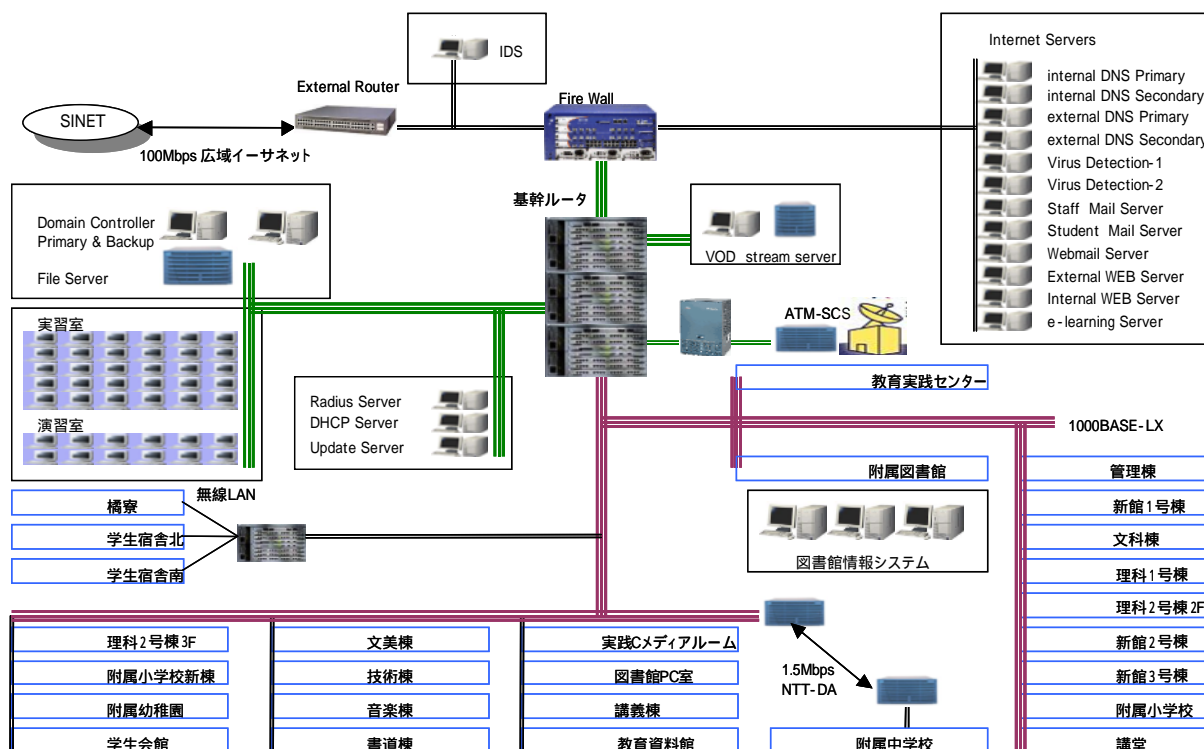
### えほんのひろば

教員を目指す学生が絵本の読み聞かせと絵本づくりを通じて子どもと接するなかで教育実践力を高めることを基軸に据えながら、地域の子育て支援、子どもと絵本を媒介とした地域交流の場、奈良県の絵本活動の拠点を目指して、平成 17(2005)年 6 月に、それまでの自習室を改装して「えほんのひろば」を開設した。

## 2) 情報館

鉄筋コンクリート造 3 階建、総床面積は 755 m<sup>2</sup>である。

本学に学内ネットワークが構築された平成 6 (1994)年から、学内の情報基盤を担っている。大阪大学を經由していた SINET への接続を平成 14(2002)年に同志社大学へ変更し、同時に回線速度を 3MBbps から 100MBbps に変更した。



情報館 1 階の中央計算機室、集中監視室及び 2 階入出力室には、各種サーバ類やネットワーク制御機器を設置している。

また、2 階演習室には 23 人、3 階の実習室には 83 人のコンピュータを使う授業のための実習室を設置している。設置しているコンピュータは、「共同利用パソコン」と呼んでおり、学内に計 244 台設置している。

平成 17(2005)年のリプレースの際、学内 4ヶ所に「プリンターステーション」を設置した。これは、共同利用パソコンで印刷指示をした後、プリンターと接続された専用端末で印刷したいものを指示して出力するもので、他の利用者の出力したものを間違えて持ち去ってしまうことや、ミスプリントなどの不要な印刷を防ぐことができる。印刷用紙は A4 に限定し、年間 1人あたり 700 ポイント（モノクロ 1ポイント/枚、カラー 4ポイント/枚）を上限として、印刷用紙を学術情報研究センターが負担している。

### 共同利用パソコン一覧

設置場所	台数	利用可能なソフトウェア	利用時間等
情報館 3 階実習室	83 台	AC3D, VRML	8:30 ~ 17:15 プリンターステーション (カラー)
情報館 2 階演習室	23 台	AC3D, VRML, Photoshop-CE, Illustrator-CE	8:30 ~ 17:15 プリンターステーション (カラー)
図書館エントランス 図書館パソコン室	33 台		図書館の開館時間に準じる プリンターステーション (モノクロ)
管理棟 1 階 就職情報コーナー	10 台		8:30 ~ 17:15
教育実践総合センター メディアルーム	15 台	Premier/ビデオ編集	8:30 ~ 20:30
文科棟 1 階 情報サテライト室	15 台		8:30 ~ 20:30
講義棟 301 パソコン室	40 台		8:30 ~ 20:30 プリンターステーション (モノクロ)
新館 3 号棟 2 階 数学計算機室	15 台		8:30 ~ 20:30
新館 2 号棟 3 階 教育演習室	15 台	一太郎	8:30 ~ 20:30

### 3) 教育資料館

明治 41(1908)年に陸軍第 38 連隊の糧秣庫として建築され、平成 4(1992)年に教育資料館として改修されたもので、レンガ造平屋建(屋根日本瓦葺) 玄関鉄骨造りで総床面積 346 m<sup>2</sup>である。

展示室(第 1 室 45 m<sup>2</sup>・第 2 室 82 m<sup>2</sup>・第 3 室 82 m<sup>2</sup>)、貴重品等収蔵庫(13 m<sup>2</sup>)、受入整理収蔵倉庫(43 m<sup>2</sup>)及び事務室(19 m<sup>2</sup>)等からなっている。

設備としては、各展示室に所蔵資料を展示するための展示ケースを備えている。また、世界遺産に関するビジュアルな情報を提供するために、DVD レコーダー・液晶テレビを備えた「世界遺産ミニシアター」2 セットを設置している。

### (3) 教育研究及びそれに関する諸活動

#### 1) 学術情報研究センター

学術情報研究センター研究開発部門の新制度を活かしたプロジェクト研究

平成 18(2006)年 3 月 24 日に附属図書館と情報処理センターと教育資料館を統合して学術情報研究センターが設置されたことに伴い、研究開発部門が設けられた。平成 18(2006)年度にプロジェクト研究を実施するために学内公募をし、

## ・ 学術情報研究センター

- [1] 博物館学・図書館学的手法を応用した教育資料の発掘・分類・分析・プレゼンテーション能力開発
- [2] 教育の情報化推進における情報基盤構築モデルプランの研究
- [3] 戦後障害児教育資料の電子化とデータベースの構築
- [4] 展示・鑑賞教育・研究の場としての教育資料館の活性化

の4つのテーマについて、学長裁量経費の配分を受けプロジェクト研究を行い、報告書を作成した(資料5-2)。

平成19(2007)年度においても、継続してプロジェクト研究をしている。

### 奈良教育大学学術リポジトリ (NEAR)

平成18(2006)年度に国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤構築事業に採択され、奈良教育大学における研究・教育の成果を大学が責任持って貯蔵(reposit)し、インターネットによって公開するための「奈良教育大学学術リポジトリ」(NEAR)を構築し、運用を開始した。

平成19(2007)年度以降においても、コンテンツの充実に向け鋭意努力している。

平成19(2007)年3月31日現在のコンテンツ登録数は、次のとおりである。

### 学術リポジトリコンテンツ登録数

学術雑誌論文	紀要論文	研究報告書	学術情報研究センター	公開講座資料	大学広報資料	合計
17	253	93	1	1	3	368

### 大学紀要

本学教員の研究成果を登載する『奈良教育大学紀要』を毎年10月に発行している。発行事務は学術情報課が担当している。

過去5年間の掲載論文数は次のとおりである。

### 『奈良教育大学紀要』掲載論文数

	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
第1号 人文・社会科学	19	21	15	19	19
第2号 自然科学	6	4	8	8	7

## 2) 図書館

### 開館時間

本学における自主学習支援のため、平日、閲覧室は9時00分から21時00分(土曜日は9時00分から20時30分)まで、パソコン室は9時00分から20時30分(土曜日は10時00分から16時30分)まで開館している。また、前・後期試験前4週から試験終了日までの間は、日・祝日に10時から17時まで開館している。

過去5年間の年間開館日数及び土曜、日祝日開館時間数の推移は下記のとおりであ

る。

#### 図書館年間開館日数等

	H14 年度	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度
年間開館日数	241	251	236	257	249
土曜開館時間数	217	231	224	238	210
日祝日開館時間数	0	0	0	35	49

#### ガイダンス

図書館利用に関する情報リテラシー支援活動の充実を図るため、平成 12(2002)年度より、新入生対象の図書館ガイダンスを授業の一環として基礎ゼミナールにおいてコース毎に実施している。ガイダンスでは、館内ツアーを始めとして、基本的な図書館の利用方法、資料の調査・検索方法、資料・文献の入手方法、種々の利用手続き等を周知している。

また、館内のパーソナルコンピュータを使用して、本学の蔵書検索や国立情報学研究所データ検索等の方法について実習を行っている。

#### 蔵書の充実

教育・研究に必要な図書資料を充実するため、「奈良教育大学学術情報研究センター図書館図書資料収集方針」(平成 16(2004)年 11 月 22 日制定)を定め、教員、学生、各講座等から推薦図書を募集し、学術情報研究センター運営委員会で選定のうえ購入し、蔵書の充実を図っている。

教科書、指導資料については、教育実習用として、奈良市内の主要小・中・高等学校が使用するものを主に、改定の都度購入して利用に供している。小学校・中学校の教科書については、最近の改定分から各科目全種類を購入している。また、シラバス掲載図書を揃えて、閲覧室にシラバス図書コーナーを設けている。

電子ジャーナルを平成 14(2002)年度から購入し充実に努めており、平成 18(2006)年度は、Elsevier 社の「サイエンス・ダイレクト」と EBSCO 社の「EBSCOhost」(Academic Search Elite) を購入した。平成 19(2007)年度についても継続購入をしている。

平成 19(2007)年 3 月 31 日現在の蔵書数等は次のとおりである。

#### 図書・雑誌

種 別	図書(冊)	雑誌(種類)
和	262,395	5,397
洋	45,228	861
点字	161	0
全所蔵冊数/種類	307,784	6,258

### 視聴覚資料

種 別	タイトル数
マイクロフィルム	10
マイクロフィッシュ	2
カセットテープ	13
ビデオテープ	36
CD・LD・DVD	143
レコード	8
映画フィルム	3
スライド	15
CD-ROM・DVD-ROM	37
合 計	267

### 電子ジャーナル(種類)

電子ジャーナル	3,410
---------	-------

### 利用者サービス

- ・ 他大学図書館の直接利用  
本学の教員、学生が他の国立大学図書館、大学共同利用機関及び公私立大学図書館等を利用する場合は、図書館が発行する「閲覧許可願」を持参することにより、相手館の閲覧規程の範囲内におけるサービスを受けることができる。
- ・ 相互利用(文献複写・現物貸借)  
国立情報学研究所のネットワークを介した ILL (Inter Library Loan) システムを利用して、ILL に参加している全国の大学図書館、各研究機関等で所蔵する図書・雑誌等の文献複写物の入手や図書の借用ができる。
- ・ 県内図書館との連携協力  
図書館は、奈良県図書館協会大学・専門図書館部会に加盟しており、参加館と相互に直接利用の利用者サービスを行っている。また、部会は奈良県図書館協会公共図書館部会と「大学・専門図書館部会と公共図書館部会との相互協力覚書」を交わしているため、公共図書館部会加盟館を利用する場合は、相手館の利用規程の範囲内において利用サービスを受けることができる。また、奈良県以外の公共図書館に対しても文献複写や現物貸借等の相互利用を積極的に行っている。

### 図書館の電算化

図書館システムを平成 17(2005)年 2 月 1 日に更新した。  
機器構成は、次のとおりである。



### 図書館システムの機器構成

機 器	機 種	台数
データベースサーバー	HP ML350	1 台
WWW サーバー	HP ML350	1 台
Z39.50 サーバー	HP ML350	1 台
業務用端末	HP dc5000	7 台
蔵書検索専用端末	HP dc5000	4 台
図書自動貸出用端末	HP dc5000	1 台
ネットワークプリンタ	Canon LBP3600	2 台

#### 遡及入力

本学が所蔵する全蔵書冊数のうち、製品雑誌、和装本、目録類を除いた冊数の約 90% はデータベース化されており、蔵書検索も図書館まで足を運ばなくても 24 時間検索が可能となっている。しかし、残り 10% が未入力の状態であり、その中には利用価値のある図書もあるため、随時、遡及入力を行っている。

#### 画像データベース

本学が所蔵する貴重図書資料を画像データベース化し、インターネットを通じて公開し、国内外の研究者に貴重な文献資料情報を提供している。現在「奈良絵本」、「幕末明治の浮世絵」の画像データベースを公開中である。

また、奈良に関わる古文書である「奈良晒関係文書」、「興福寺南院文書」を CD-ROM 化しており、一部分はインターネット公開しているが、図書館内では全体を閲覧することができる。

### 3) 情報館

学部共通科目「情報機器の操作」が全 1 回生を対象として前期展開されている。この授業を中心として、情報関連科目の多くが館内の実習室・演習室で実施されている。それぞれ、平成 18(2006)年度の利用状況は以下のとおりである。

#### (前期 3 階実習室)

	月	火	水	木	金
1 2	システムプログラミング 藤原		科学情報教育概論 梶原・堀端・河上		数理プログラミング 藤原
3 4	情報社会と倫理 山邊・佐野	教師のための日本語情報処理 加藤		コンピュータデザイン 堀端	総合演習基礎ゼミナール 浅井
5 6	中等教科教育法(数学) 重松	情報機器の操作 伊藤直治	先導理数教育 I 川崎 中等教科教育法(理科) 松山	ウィンドウズプログラミングとデータベース 浅井	情報機器の操作 藤原

・ 学術情報研究センター

7 8		情報機器の 操作  伊藤剛和		物理学実験 (コンピュータ活 用を含む) 長友 (4・5月)	情報機器の 操作  伊藤剛和
9 10	英作文 デイヴィット・ ジョーンズ				

(後期 3階実習室)

	月	火	水	木	金
1 2		情報メディア の活用  伊藤剛和	中等教科教 育法 (情報)  伊藤剛和		計算機による 文書整形  浅井
3 4			数理プログラ ミング  高田	代数系入門  浅井	
5 6	情報メディア の活用  伊藤剛和	情報システム 論  伊藤直治	先導理数 教育 川崎 (入室可)		教育方法・メ ディア  藤原
7 8	数理と情報  浅井			物理学実験 (10月のみ) 中村 情報科学 入門 (11月~) 伊藤直治	教育方法・ メディア  藤原
9 10	英作文 デイヴィット・ ジョーンズ	情報メディア の活用 伊藤剛和		物理学実験 (10月のみ) 中村	

(前期 2階演習室)

	月	火	水	木	金
1 2		中等教科教 育法Ⅰ(美 術) 梶田(4・5月)		障害児教育 情報処理論 玉村	デザイン (6/23~ 7/28) 松井
3 4		情報とメディ ア(大学院) (6・7月) 藤原			デザイン (6/23~7/28)  松井
5 6		符号理論 (4/25~)  浅井			
7 8	物質情報 実験A (4~6月) 松山・中村			コンピユー タと文化財Ⅱ  須賀	
9 10	物質情報 実験A (4~6月) 松山・中村				

(後期 2階演習室)

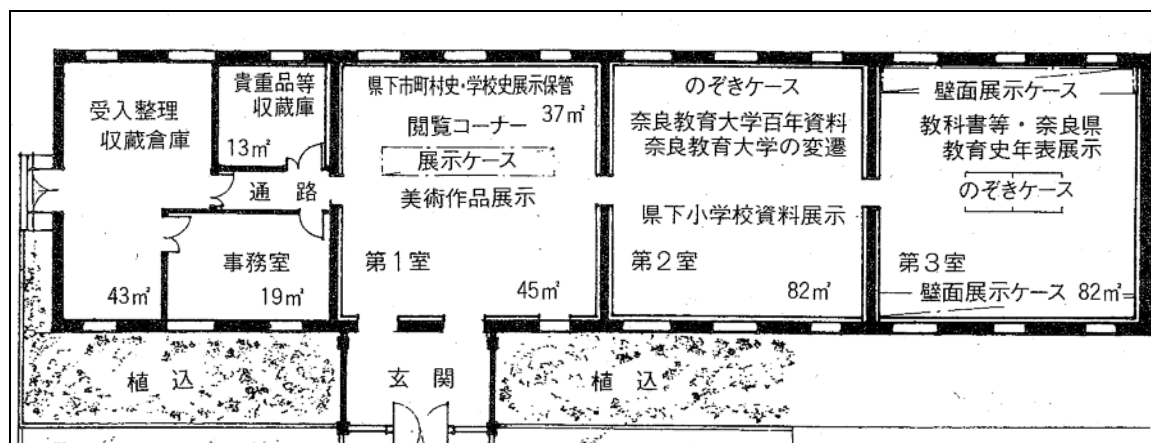
	月	火	水	木	金
1 2	情報と職業 伊藤剛和		複雑系の 科学 (11~2月) 中 田		
3 4		マルチメディア概論 藤 原	総合教育 基礎 ゼミナール II 伊藤直治	中等教科 教育法 IV (国語) 前田広幸	デザイン理論 特講 松 井
5 6		日本語学 演習D  前田広幸			
7 8	数学教育論  重 松	情報通信シス テム工学  藤 原		コンピュ ータ と文化財  須 賀	
9 10					

上記の時間割で空いているコマでは、学生のオープン利用が図られている。電子メールによる課題提出や情報交換、インターネットを利用した情報検索など、学生の学習活動や課外活動に欠かせない施設設備になっている。

4) 教育資料館

我が国の学制発足以降における奈良県下の初等中等教育に関する資料を中心として、教育関係資料の収集、調査研究を行っている。

教育資料館平面図



第1室には、本学教員の絵画、彫刻、書などの美術作品を展示している。

第2室には、本学教育の変遷に関連した資料と、県下小学校の資料が展示されている。また、本学教育の歴史的な変遷についての年表を掲示している。

## ． 学術情報研究センター

第3室には、学制発足以降における奈良県下で使用された教科書等の資料を展示するとともに、奈良県教育史年表も掲示している。

世界遺産に関するビジュアルな情報を提供するため、DVDレコーダー、液晶テレビを備えた「世界遺産ミニシアター」2セットを設置している。

所蔵する資料については、所蔵資料データベースを作成し、教育資料館のホームページ上で公開している。

最近5年間の入館者数は次のとおりである。

### 教育資料館入館者数

	本学教職員	本学学生	学外者	本学小学生	合計
平成14年度	58人	338人	994人	1,414人	2,804人
平成15年度	60人	429人	611人	1,483人	2,583人
平成16年度	67人	382人	504人	882人	1,835人
平成17年度	74人	326人	508人	1,346人	2,254人
平成18年度	165人	714人	675人	545人	2,099人

### (4) 地域社会への貢献・連携活動

#### 1) 開放講座等の実施

大学開放の一環として大学の知的財産を広く地域に公開するため、図書館では、平成12(2000)年1月より「附属図書館開放講座」を開催している。情報館(旧:情報処理センター)では、平成5(1993)年度からパソコン実用講座を開講し、以後、継続してコンピュータの利用に関する講座を開催している。教育資料館としては、平成7(1995)年度から、特別展示会等を開催している。

平成18(2006)年度は、学術情報研究センターとして、次の開放講座等を開催し、平成19(2007)年度についても継続して実施している。

#### 平成18(2006)年度

『幕末の奈良 奈良奉行と茶の湯・浮世絵』 10月14日(土)

講師: 赤井達朗(元本学長・本学名誉教授)

特別展示「幕末明治の浮世絵 陳玄堂コレクション」

10月13日(金)~14日(土) 場所: 教育資料館

『奈良学芸大学時代の遺跡調査』 10月28日(土)

講師: 赤塚次郎(愛知県埋蔵文化財センター調査課主任主査)

特別展示「吉備塚古墳出土物」「社会科教育保管考古資料等」

10月28日(土)~11月5日(日) 場所: 教育資料館

(情報館)

『ホームページを作ろう~HTMLからBLOGまで』

8月16日(火)~18日(木)

講師: 藤原公昭(本学教授)

『初めてのワードとエクセル』 9月4日(月)、11日(月)、25日(月)

講師: 加藤久雄(本学教授)

(教育資料館)

- 「毛筆で描く奈良の絵はがき展」 4月25日(火)～5月15日(月)
- 「身体表現コース・美術1回生展」 6月1日(木)～6月15日(木)
- 「手作り絵本・二十歳の自叙伝絵巻物展」 1月25日(木)～2月3日(土)

なお、平成17(2005)年度までの開放講座等の実施状況は次のとおりである。

(旧：附属図書館)

平成14(2002)年度

- 『トイレの考古学』 8月31日(土) 講師：金原正明(本学助教授)
- 『音楽療法とはなにか?』 10月19日(土) 講師：福井 一(本学助教授)
- 『クモの糸の不思議』 10月26日(土)  
講師：大崎茂芳(奈良県立医科大学教授)  
〔「青少年のための科学の祭典」奈良大会実行委員会と共催〕
- 『奈良教育大学構内吉備塚古墳発掘調査で分かったこと』 2月15日(土)  
講師：長友恒人(本学教授)・金原正明(本学助教授)

平成15(2003)年度

- 『歌謡(うた)のはたらき』 7月26日(土) 講師：真鍋昌弘(本学教授)
- 『楽しい考古学 縄文食を食べる』 10月18日(土)  
講師：岡村道雄(奈良文化財研究所 平城宮跡発掘調査部長)
- 『水辺に学ぶ自然の数理 魚類生態系への物理学的アプローチ』  
2月28日(土) 講師：松山豊樹(本学助教授)

平成16(2004)年度

- 『手作り絵本 パート1 かぞくで絵本をつくろう』 5月22日(土)  
講師：加藤啓子(絵本研究家)・梶田幸恵(本学教授)
- 『絵本の楽しみ方 パート1 絵本があるともっと楽しい 子育て・保育の中に絵本を』 7月10日(土) 講師：横山真貴子(本学助教授)
- 『絵本の楽しみ方 パート2 絵本があるともっと楽しい 子育て・保育の中に絵本を』 8月7日(土) 講師：横山真貴子(本学助教授)
- 『手作り絵本 パート2 おじいさん・おばあさん、お孫さんと絵本を作ってみましょう。』 11月6日(土)  
講師：加藤啓子(絵本研究家)・梶田幸恵(本学教授)

平成17(2005)年度

- 『児童文学の笑い - 日本の笑い、イギリスの笑い、フランスの笑い -』  
10月8日(土) 講師：原 昌(日本児童文学学会会長、中央大学名誉教授)
- 『子どもの本の愉しみ』 11月5日(土) 講師：今江祥智(児童文学作家)
- 『児童文学に描かれた笑い』 12月3日(土) 講師：松川利広(本学教授)

(旧：情報処理センター)

平成14(2002)年度

- 『中級パソコン講座』 8月5日(月)～8月8日(木)  
講師：藤原公昭(本学教授)
- 平成 15(2003)年度
- 『初めてつくるホームページ』 8月5日(火)、6日(水)、12日(火)、13日(水)  
講師：藤原公昭(本学教授)
- 『初めてつくる Word 文書』 9月4日(木)～25日(木) 毎週木曜日  
講師：加藤久雄(本学教授)
- 平成 16(2004)年度
- 『初めてつくるホームページ』 8月11日(水)～13日(金)  
講師：藤原公昭(本学教授)
- 『初めてつくる Word 文書』 9月2日(木)～30日(木) 毎週木曜日  
講師：加藤久雄(本学教授)
- 平成 17(2005)年度
- 『ホームページを作ろう～HTML から BLOG まで』  
8月16日(火)～18日(木) 講師：藤原公昭(本学教授)
- 『初めてのワード』 10月6日(木)～20日(木) 毎週木曜日  
講師：加藤久雄(本学教授)
- (旧：教育資料館)
- 平成 14(2002)年度
- 「中国近現代書法展」11月8日(金)～11月10日(日) 10:00～16:00  
[特別講演]「鄭孝胥の書法について」 11月9日(土) 13:30～15:30  
講師：中村重勝(岐阜女子大学助教授)
- 平成 15(2003)年度
- 「身表新入生合宿展」 5月26日(月)～10月3日(金)
- 「50枚絵はがき展」 10月7日(火)～10月27日(月)
- 「中国書画篆刻展」 10月31日(金)～11月2日(日) 10:00～16:00  
[特別講演]「西冷印社について」 11月2日(日) 13:30～15:30  
講師：陳 大中(岐阜女子大学教授・中国美術学院書道学部副教授)
- 「身表・美術1回生展」 12月5日(金)～12月22日(月)
- 「手作り絵本・二十歳の自叙伝絵巻物展」 1月22日(木)～2月24日(火)
- 平成 16(2004)年度
- 「日中小学生書法展」11月5日(金)～11月7日(日) 10:00～16:00  
[特別講演]「中国の書法教育について」11月7日(日) 13:30～15:30  
講師：張 莉(京都造形大学非常勤講師)
- 「手作り絵本・二十歳の自叙伝絵巻物」 1月24日(月)～2月12日(土)
- 平成 17(2005)年度
- 「中国小中学生書作品展」 6月29日(水)～7月21日(木)
- 「比留間良介スケッチ展」 7月25日(月)～8月5日(金)
- 「手作り絵本・二十歳の自叙伝絵巻物展」 1月26日(木)～2月10日(金)

2) 図書館

地域への図書館開放

平成 11(1999)年度より図書館規程等を見直し、本学教員、学生だけでなく、学外者の利用も認めることとした。現在は、地域住民の利用も増加している。

最近 5 年間の本学図書館における学外利用者数は次のとおりである。

**図書館の学外利用者数**

	他大学の 学生	他大学の 研究者	大学以外の 研究者	その他(一 般市民等)	合 計
平成 14 年度	105	31	75	203	414
平成 15 年度	126	6	46	986	1,164
平成 16 年度	143	21	34	414	612
平成 17 年度	161	17	49	334	561
平成 18 年度	148	14	32	288	482

(単位:人)

また、平成 17(2005)年 6 月に図書館に開設された「えほんのひろば」を毎週水曜日の 13 時から 17 時まで開室し、学生が絵本の読み聞かせを行い、地域住民の利用に供している。また、毎年 8 月には、本学を会場として開催される「絵本ギャラリー in 奈良」(主催:同実行委員会 後援:奈良教育大学等)に参加して、えほんのひろばを開放している(資料 5 - 4)。

3) 教育資料館

常設展示

教育資料館所蔵資料を常設展示として公開している。

特別展示

学内の様々な資料を広く一般に公開するために、教育資料館を会場にして、特別展示として実施している。内容については、先に記載した「(4) 地域社会への貢献・連携活動 開放講座等の実施」の教育資料館の欄のとおりである。

(5) 情報公開、広報・ニュース発行等

学術情報研究センター図書館、情報館、教育資料館の種々の情報については、大学ホームページに掲載し、情報公開、広報として学外に発信している。

学術リポジトリに関しても、大学ホームページに掲載し広報している。

(URL . <http://dspace.nara-edu.ac.jp:8080/dspace/index.jsp>)

### 3 . 自己評価と改善の方策

#### 【自己評価】

本学の高畑団地において、施設整備について十分に整備された環境であり、教育課程の実現に応えるべく、有効に利用されていると言える。集約的な団地という有利な立地条件もある。情報ネットワークは非常に整備され、学生の勉学への有効な支援機能を果たしている。

図書購入費で購入する図書、学術雑誌、視聴覚資料等は、学術情報研究センター運営委員会の審議を経て選定する。学術情報研究センター図書館は、人員と予算の効率的な運用のために、利用者の役に立つ蔵書構築を目指すことを基本とし、シラバス掲載資料や授業に必要な参考資料等、学習環境の整備のために必要なものについて購入を図っている。また、学術文献・資料の電子版の導入を積極的に推進するとともに、利用講習会を積極的に開催して、学生・教職員の利便を図っている。

#### ( 1 ) 施設

図書館の建物は昭和 41(1966)年に新築、昭和 52(1977)年度に増築、平成 14(2002)年度に玄関増築・自動扉に改修され、現在に至っている。したがって、当初の新築部分は特に老朽化が著しく、冷暖房のない部分がある。特に、この部分に和装本、その他の貴重な図書が多数保管されており、劣化が危惧されている。

また、書庫スペースの収容能力が 95%に達しており、資料管理及び資料閲覧の上でもかなりの不便を感じている。

現在の建物は緑に恵まれており、閲覧室での勉学は視覚的にも環境が良く、全体的にフラットな構造は図書館としての利便性が高いため、この環境を維持しつつ増改築を計画する必要がある。

図書館の増改築については、インターネット等を利用した情報伝達システムの発展、及び電子図書館的機能の充実を踏まえた増改築計画を検討する必要がある。増築の内容としては、貴重図書等を安全に保管できる書庫、インターネットを活用した授業を展開できるメディアルーム等の、現在図書館には無い設備も必要である。

また、全館冷暖房完備を中心として、多目的ホールの設置も必要で、公開講座、講演会等に幅広く活用できるスペースが望まれる。

情報館は平成 6 (1994)年に新築され、学内では比較的新しい建物である。

しかし、3階建ての建物もエレベーター設備がないため、コンピュータシステムの入替えに時間を要している。また、館内で行われる公開講座には、車椅子での希望者を受け入れることができないため、エレベーター設備の設置が望まれる。

また、83人収容の実習室と23人収容の演習室が設置されているが、受講者数を考慮した場合、更に40人程度を収容する演習室の設置が望まれる。



(2) 設備

図書館では、視聴覚機器及び CD-ROM サーバーを含めて、情報検索、視聴覚関連機器等の台数が少なく、利用者を制限する場合がある。また、利用に際しても密閉空間に設置されていないため、ヘッドフォンの使用を余儀なくされている。

情報館の実習室及び演習室は、授業での利用があるため、学生の利用に制限がある。平成 17(2005)年 3 月に設置されたパソコンルーム 301 は授業での利用がないため、学生に多く利用されている。

オンデマンドプリンタの設置により、それまで学生が自由に紙を持ち込んで印刷する方式から、大学が印刷用紙を用意する仕組みとなった。印刷用紙を限定することで、プリンタの故障頻度が下がり、保守に要する時間が少なくなったことで一定の運用上の効果があったと考えられる。

(3) 開館時間

図書館の時間外開館に際しては、アルバイト 2 名で対応している。経費削減の観点から、平日の月曜日と金曜日に、1 名は学術情報課職員で時差出勤により時間外窓口対応をしている。図書館の利用状況や利用者の意見を検討し、柔軟に対応してきたが、今後も費用対効果を考えながら、平日開館時間の延長、土曜・日曜・祝日開館について検討していく必要がある。

最近の開館状況は、次のとおりである。

**図書館開館時間**

	授業期間 平日(月～金) [パソコン室]	教育実習期間 平日(月～金) [パソコン室]	土曜日 [パソコン室]	試験期 日曜日・祝日 [パソコン室]
平成 15 年度	9:00～20:00 [9:00～18:00] 後期(10月)から 9:00～22:00 [9:00～21:00]	9:00～20:00 [9:00～18:00]	10:00～17:00 [閉室]	
平成 16 年度	9:00～22:00 [9:00～21:00]	9:00～22:00 [9:00～21:00]	10:00～17:00 [閉室]	
平成 17 年度	9:00～21:00 [9:00～20:30]	9:00～20:00 [9:00～19:30]	10:00～17:00 [10:00～16:30]	(試験前1週間・試験期) 10:00～17:00 [10:00～16:30]
平成 18 年度	9:00～21:00 [9:00～20:30]	9:00～20:00 [9:00～19:30]	10:00～17:00 [10:00～16:30]	(試験前3週間・試験期) 10:00～17:00 [10:00～16:30]

備考：(1)休業期は、平日(月～金)の 9:00～17:00 開館。 土・日・休日は休館。

(2)時間外の閲覧業務は、各日 2 名(時間雇用職員)勤務。

(3)平成 15 年度後期(10 月)からは、時間外開館日の月曜日と、金曜日については、2 名のうち 1 名は図書館職員

## ・ 学術情報研究センター

情報館の開館時間は、平日の 8:30～17:15 であるが、学生からの夜間・休日開館の要望は多くある。パソコンルーム 301 をはじめとするサテライト室の開放時間は、8:30～20:30 であるが、問い合わせやプリンタの消耗品補充に対応できる時間は 8:30～17:15 であるため、17 時以降の利用については、一部利用制限を受ける場合がある。

情報館では、平成 17(2005)年 2 月からヘルプデスク学生スタッフ（平成 18(2006)年度は 4 名）を配置し、前述の問い合わせ対応やトラブル時の初期対応、消耗品補充にあたっている。ただし、職員の勤務時間帯である 8:30～17:15 の間に業務が限られており、夜間開館には対応できていない。

サテライト室を含め、情報館の開館時間については、今後検討の必要がある。

### （４）蔵書の充実

本学図書館は、約 31 万冊の蔵書を有している。「教育・研究活動に必要な資料を系統的に収集し、教員養成大学図書館として体系的で均衡のとれた蔵書構成を図ることを目的とする。」（「奈良教育大学学術情報研究センター図書館図書資料収集方針」平成 16(2004)年）の趣旨により、蔵書の充実に努めてきた。蔵書の構成としては、教員養成大学の特色上、文科系、理科系、芸術・体育系という広範な分野の蔵書構成を確立している。しかし、図書館資料費の面から、基本図書を充実させるにも厳しい状態であり、タイムリーな新刊図書を揃えるには非常に困難な状況ではある。しかし、すでに実施している教員推薦・学生推薦による図書購入を効果的に推進し、利用者の需要を的確に反映していきたい。

### （５）利用者サービス

図書館の増改築については、過去には概算要求をすべく努力をした時期もあった。しかし、現状では非常に難しい状況であり、インターネット等を利用した情報伝達システムの発展、及び電子図書館的機能の充実に踏まえた増改築計画を再検討する必要がある。増改築の内容については、貴重図書等を安全に保管できる書庫、インターネットを活用した授業を展開できるメディアルーム等の現在の図書館には無い設備を備えたい。また、全館冷暖房完備を中心として、多目的ホールの設置も必要で、公開講座、講演会等に幅広く活用できるスペースを計画している。

### （６）図書館の電算化

情報検索サービス及び外部データサービスの選択、利用等が今後の検討課題となっている。

学術情報は、近年従来の印刷物の形態から、電子ジャーナルのような電子化されたメディアとしてインターネット上に公開されてきている。本学でも、平成 18(2006)年度に国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤構築事業に採択され、奈良教育大学における研究・教育の成果を発信できる、奈良教育大学学術リポジトリを構築し運用を開始している。平成 19(2007)年度以降においてもコンテンツの充実に図り、国内外の研究者への研究支援に努めたい。

#### (7) 遡及入力

過去にはアルバイトを雇用して遡及入力を行い、本学の全蔵書冊数のうち、正本雑誌、和装本、目録類を除いた冊数の90%がデータ化されている。平成18(2006)年からは、予算等の関係で、職員により新しく受け入れた図書の入力をする傍ら遡及入力も行っている状況である。通常業務との併行作業であるため、早期には遡及入力の終了は難しい。本学が所蔵する資料情報を公開し、研究者への情報提供に資するため、遡及入力を進める方策を検討する必要がある。

#### (8) 地域社会への寄与

公共図書館との連携において文献複写や現物貸借等の相互利用を推進すべく、本学が加盟する奈良県図書館協会大学・専門図書館部会と同公共図書館部会との間で「大学・専門図書館部会と公共図書館部会との相互協力覚書」を交わして相互協力を行っている。

また、大学開放の一環として開放講座、公開講座をはじめ、図書館「えほんのひろば」の地域住民への開放や、教育資料館での展示会等の開催により、地域社会への寄与に努めている。

#### 【優れた点】

課程認定大学実地視察において、実地視察委員である中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会の委員から、小学校及び中学校の教科書出版社の教科書を購入し、利用に供している点が評価されている。

教育実習用として、奈良市内の主要小・中・高等学校が使用する教科書を主に購入している。小学校・中学校は本学附属校、奈良市教育委員会採用の教科書を各科目3冊ずつ、平成17(2005)年度小学校使用分からは、奈良市教育委員会に採用されていない教科書も各科目全種類を1冊ずつ購入している。

学術情報研究センター図書館「えほんのひろば」は、より良い絵本の環境を作り上げたいと、学生達と試行を重ねている。特色ある図書館づくりの一環として、幼児教育を学ぶ学生の教育支援と、絵本を読み聞かせる実践の場を提供しようと開設した。特に、附属学校園との連携教育、また、地域の家庭教育の支援を目的に開設したものである。

図書館利用者への職員による対応サービス面については、平成17(2005)年度学生生活実態調査報告書のアンケート(資料5-5)のQ57.附属図書館についての自由記述で、「開館日時やサービスがよくなって利用しやすくなった」、「使いやすいし、静かで良いと思う」、「身近に利用できる環境はありがたい。開館時間の長さも嬉しい。図書購入についての要望調査なども丁寧だと思う。」、「教育新聞なども置いてあるので、役に立つ情報を手に入れることができる」等、積極的評価が学部学生7件、大学院学生3件あった。Q56での回答で「窓口サービスに不満」が皆無であったことも考えあわせると、積極的評価が行われていると思われる。

教育資料館が提供しているホームページ掲載の本学所蔵資料(画像)が、出版物への掲載や放送で使用されるなど、資料の公開により、各方面で活用されている。

施設・設備について、教育課程の実現に応える規模と種類は整備されている。また、それらの利用の方針や規則が明確に定められている。

## ． 学術情報研究センター

情報基盤としてのキャンパスネットワークは、学生のレポート作成、情報検索、情報通信等、快適な利用環境を持っている。

学術情報研究センターは、書誌情報・電子情報の受発信を通じて、本学の教育研究の水準向上に貢献している。

### 【改善を要する点・改善の方策】

本学では、「教職員及び学生等利用者にとって教育・研究活動に必要な資料を系統的に収集し、教員養成大学図書館として体系的で均整のとれた蔵書構成を図ることを目的とする」（奈良教育大学学術情報研究センター図書館図書資料収集方針）の主旨により、蔵書の充実に努めてきた。蔵書の構成としては、教員養成大学という特色上、文科系、理科系、芸術・体育系という広範な分野の蔵書構成を確立している。しかし、図書館資料費等の面から、基本図書を充実させるにも厳しい状態であり、アップトゥーデートに新刊図書を揃えるには困難な状況ではあるが、既に実施している教員推薦・学生推薦による図書購入を効果的に推進し、利用者の需要を的確に反映していきたい。

奈良教育大学学術リポジトリについて、コンテンツの充実とともに、教員データベースシステムなど、他の学内システムとの連携を図っていくことが必要であり、平成19(2007)年度において検討している。

## 4 ． 中期目標・中期計画との関係とその成果

### 中期目標

#### 教育環境の整備に関する基本方針

- ・ 良好な授業環境と自習環境の充実を図り、情報ネットワークを整備・活用する。

中期計画 選択可能なユニット教材を整備するなど、情報教育を充実させる。

情報教育実施のため、パソコン等の再配置を検討し、特にメンテナンス面において、学生の利便性を図るため、学内に点在していた共同利用パソコンを講義棟の1室に設置（パソコン 40 台等）した。

e-ラーニング（WebCT、WBLSS）を活用した授業実践を実施した。

中期計画 教育に必要な設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備の具体的方策

- ・ 附属図書館による教育研究図書・資料等の系統的整備を行うとともに、資料のデータベース化の促進と Web による検索利用機能の強化等、情報ネットワークを整備する。

シラバス掲載図書を平成 17(2005)年度使用分から備えるため、購入希望図書に

ついて全教員へメールで照会し、回答のあったものを購入した。利用については、閲覧室にシラバスコーナーを設け、利用に供することとした。

平成 17(2005)年 6 月に図書館に開設した「えほんのひろば」に備えるための絵本を購入（平成 17(2005)年度 1,900 冊）し、それ以後も毎年絵本を購入して、利用に供している。

図書資料のデータベース化については、平成 13(2001)年度からの 5 カ年計画で遡及入力をアルバイトにより実施したが、それ以後は職員で遡及入力を実施している。

- ・ 教育研究推進のため、附属図書館等の再編・充実を図り、学術情報活用の総合的機能を高めるため、教育研究情報の一元管理と活用を目的とする設置と組織の整備を行う。

平成 16(2004)年度より検討を行い、それまでの附属図書館、情報処理センター、教育資料館を再編統合し、平成 18(2006)年 3 月 24 日に学術情報研究センターを設置した。

大学紀要のデータベース化については、平成 15(2003)年度から電子化及びインターネット公開についての利用許諾を得て、国立情報学研究所が実施する「研究紀要公開支援事業」により公開していた。次に、平成 18(2006)年度に構築した本学の学術リポジトリに登録し、本学学術情報を広く発信することにした。今後発行される『奈良教育大学紀要』についても、発行の都度、学術リポジトリに登録していく。

## 5 . 資料一覧

- 資料 5 - 1 : 『学術情報研究センター概要』(平成 18 年 3 月 24 日開所式配付資料)
- 資料 5 - 2 : 平成 18 年度採択「学術情報研究センター研究開発部門の新制度を活かしたプロジェクト研究」『学長裁量経費(教育研究改革・改善プロジェクト経費)報告書』
- 資料 5 - 3 : 『図書館利用案内 2007』奈良教育大学学術情報研究センター図書館
- 資料 5 - 4 : 『平成 18 年度えほんのひろば活動状況報告書』奈良教育大学学術情報研究センター図書館、平成 19 年 3 月
- 資料 5 - 5 : 『平成 17 年度学生生活実態調査報告書』(図書館関係)《 次頁に掲載》

資料 5 - 5 . 平成 17 年度学生生活実態調査の集計結果及び分析 (図書館関係)

Q53 附属図書館をどのくらい利用しますか

		学部学生						大学院生					
		男		女		合計		男		女		合計	
		人数	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率
1	毎日	14	15.7%	21	8.8%	35	10.6%	1	5.0%	0	0.0%	1	2.2%
2	週1回以上	34	38.2%	89	37.1%	123	37.4%	10	50.0%	7	28.0%	17	37.8%
3	月1回以上	18	20.2%	83	34.6%	101	30.7%	5	25.0%	10	40.0%	15	33.3%
4	年数回	16	18.0%	37	15.4%	53	16.1%	4	20.0%	8	32.0%	12	26.7%
5	利用したことがない (Q57i以降に答える)	3	3.4%	1	0.4%	4	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計		85		231		316		20		25		45	

無回答 13

無回答 0

Q53 表に見られるように、附属図書館を利用している学部学生は 98.8%、大学院学生は 100.0%である。これらの数字は、平成 15 年度調査と大きな差はない。利用頻度別に比率(学部学生及び大学院学生の順に表記)をみると、「毎日」10.6%、2.2%、「週1回以上」37.4%、37.8%、「月1回以上」30.7%、33.3%、「年数回」16.1%、26.7%であり、これらも平成 15 年度調査と比べて概ね大差はみられない。

平成 15 年度調査と比べて変化がみられる点は、学部学生「毎日」が 9.0 ポイント高くなっていることである。利用頻度を入学年度毎にクロス集計した結果は、次のとおりである(この点については、図書館に係る事柄に限って、次のように表示する。学部学生 = 平成 17 年度入学 16 年度入学 15 年度入学 14 年度入学。大学院学生 = 平成 17 年度入学 16 年度入学。当該入学年度毎に比率を示す。以下、入学年度毎に示す場合は同様)。

- ・ 「毎日」 : 学部学生 = 7.1% 9.7% 9.4% 15.7%  
大学院学生 = 4.2% 0.0%
- ・ 「週1回以上」 : 学部学生 = 44.3% 43.5% 41.7% 21.3%  
大学院学生 = 33.3% 43.8%
- ・ 「月1回以上」 : 学部学生 = 30.0% 27.4% 28.1% 39.3%  
大学院学生 = 45.8% 18.8%

この結果により、学部学生については 1 ~ 3 回生で「週1回以上」及び「月1回以上」で概ね 7 割近くを占め、「毎日」は 4 回生で若干増えることがわかる。大学院学生は、学年進行に伴い「週1回」が 10.5 ポイント高くなり、「月1回」が 27 ポイント低くなっている。

なお、学部学生について課程毎にみた場合、有意であると思われるほどの差が見られた点は、「毎日」が学校教育教員養成課程 13.5%、総合教育課程 8.4%という数字のみであった。また、図書館に関係する事柄（Q53～Q56）のうち、有意であると思われるほどの大きな差は、この他には見られなかった。

Q54 利用する目的は何ですか(主なものを2つ)

	学部学生						大学院生					
	男		女		合計		男		女		合計	
	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率
1 図書・雑誌の閲覧・借り受け	51	.59.3%	171	71.5%	222	68.3%	19	95.0%	23	92.0%	42	93.3%
2 新聞の閲覧	12	14.0%	9	3.8%	21	6.5%	7	35.0%	0	0.0%	7	15.6%
3 文献複写	15	17.4%	57	23.8%	72	22.2%	8	40.0%	10	40.0%	18	40.0%
4 試験勉強のため	15	17.4%	46	19.2%	61	18.8%	1	5.0%	0	40.0%	1	2.2%
5 毎日の予習・復習のため	12	14.0%	21	8.8%	33	10.2%	1	5.0%	0	0.0%	1	2.2%
6 その他	40	46.5%	119	49.8%	159	48.9%	0	0.0%	3	12.0%	3	6.7%
合計	145		423		568		36		36		72	

無回答 13

無回答 1

Q54 附属図書館を利用する目的については、主な2つを回答することとなっている。この際、比率は、Q53で「利用したことがない」と回答しなかった者のうち、当該の有効回答数を分母として計算した。その結果、表に見られるように比率（学部学生・大学院学生の順に表記）は、「図書・雑誌の閲覧・借り受け」68.3%、93.3%、「新聞の閲覧」6.5%、15.6%、「文献複写」22.2%、40.0%、「試験勉強」18.8%、2.2%、「毎日の予習・復習」10.2%、2.2%、「その他」48.9%、6.7%であった。学部学生「その他」の数字が半数近い点も注目される。また、入学年度毎に見た結果のうち有意な点は、次のとおりである。

- ・「図書・雑誌の閲覧・借り受け」
  - : 学部学生 = 60.0% 67.7% 69.9% 77.3%
  - 大学院学生 = 100.0% 87.5%
- ・「文献複写」
  - : 学部学生 = 14.3% 19.4% 17.2% 36.4%
  - 大学院学生 = 33.3% 68.8%
- ・「試験勉強」
  - : 学部学生 = 10.0% 11.3% 24.7% 23.9%
  - 大学院学生 = 4.2% 25.0%
- ・「毎日の予習・復習」
  - : 学部学生 = 18.6% 17.7% 8.6% 1.1%
  - 大学院学生 = 0.0% 0.0%
- ・「その他」
  - : 学部学生 = 72.9% 56.5% 50.5% 26.1%
  - 大学院学生 = 8.3% 0.0%

これらの結果によれば、「図書・雑誌の閲覧・借り受け」、「文献複写」は4回生で増え、「試験勉強」は3回生で増え、「毎日の予習・復習」は3回生から減り始めている。前述した「その他」は、中でも1回生が7割を超えている。大学院学生については、「図書・雑誌の閲覧・借り受け」が8割を超えており、「文献複写」が学年進行に伴い35.5ポイント高くなり、68.8%となっている。

Q55 施設、図書資料及びサービス面に満足していますか

		学部学生						大学院生					
		男		女		合計		男		女		合計	
		人数	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率
1	満足している	27	31.4%	47	19.7%	74	22.8%	9	45.0%	9	36.0%	18	2.2%
2	どちらともいえない	31	36.0%	91	38.1%	122	37.5%	6	30.0%	6	24.0%	12	37.8%
3	不満である(Q56に答える)	20	23.3%	89	37.2%	109	33.5%	5	25.0%	10	40.0%	15	33.3%
合計		78		227		305		20		25		45	

無回答 7

無回答 0

Q55 満足度についても比率は、Q53で「利用したことがない」と回答しなかった者のうち、当該の有効回答数を分母として計算した。その結果、学部学生・大学院学生の順で「満足」22.8%、40.0%、「どちらでもない」37.5%、26.7%、「不満」33.5%、33.3%であった。これらの数字を平成15年度調査と比べて差が見られる点は、学部学生の「満足」が4.1ポイント低くなり、「不満」が7.9ポイント高くなっている一方で、大学院学生の「満足」が27.3ポイント高くなり、「不満」が17.3ポイント低くなっていることである。また、入学年度毎に見た結果のうち有意な点は、次のとおりである。

- ・ 「満足」 : 学部学生 = 27.1% 30.6% 19.4% 19.3%  
                  大学院学生 = 37.5% 43.8%
- ・ 「不満」 : 学部学生 = 31.4% 35.5% 35.5% 33.0%  
                  大学院学生 = 41.7% 25.0%

これらの結果により、学部学生の満足度が3回生から低下し、大学院学生の満足度が2回生になり上昇する傾向が見られる。



Q56 不満であるという点は何ですか

		学部学生						大学院生					
		男		女		合計		男		女		合計	
		人数	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率
1	見たいと思う図書・雑誌が少ない	12	60.0%	62	69.7%	74	67.9%	4	80.0%	8	80.0%	12	80.0%
2	見たいと思う図書・雑誌が見つからない	1	5.0%	8	9.0%	9	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	見たいと思う図書・雑誌が古すぎる	2	10.0%	13	14.6%	15	13.8%	1	20.0%	1	10.0%	2	13.3%
4	窓口サービスに不満がある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	その他	5	25.0%	6	6.7%	11	10.1%	0	0.0%	1	10.0%	1	6.7%
合計		20		89		109		5		10		15	

無回答 0

無回答 0

Q56 Q55で「不満」と回答した人にはその理由を尋ねた。その集計結果の比率（学部学生、大学院学生の順に表記）は、表に見られるように「見たいと思う図書・雑誌が少ない」67.9%、80.0%、「見たいと思う図書・雑誌が見つからない」、8.3%、0.0%、「見たいと思う図書・雑誌が古すぎる」13.8%、13.3%、「窓口サービスに不満」0.0%、0.0%、「その他」10.1%、6.7%である。平成15年度調査と比較すると、「少ない」が学部学生12.3ポイント、大学院学生15.0ポイント高くなり、「古すぎる」が大学院学生11.7ポイント低くなっている点が注目される。また、入学年度毎に見た結果のうち有意な点は、次のとおりである。

- ・「少ない」 : 学部学生 = 68.2% 54.5% 66.7% 75.9%  
大学院学生 = 80.0% 75.0%
- ・「見つからない」 : 学部学生 = 13.6% 4.5% 3.0% 13.8%  
大学院学生 = 0.0% 0.0%
- ・「古すぎる」 : 学部学生 = 9.1% 13.6% 27.3% 3.4%  
大学院学生 = 20.0% 0.0%

学部学生については、「少ない」が1～3回生まで5割～6割であるが、4回生では75.9%と高くなっている点および、「古すぎる」の3回生27.3%が高い点が注目される。また、大学院学生については75%以上が「少ない」と回答している。

Q57 附属図書館についての自由記述

Q57 附属図書館についての自由記述による意見は、学部学生119名(36.2%)、大学院学生23名(53.5%)の回答があった。1名が複数の案件を記述しているものが多数ある。

特に注目される記述は、次のとおりである（比率の分母は当該の記述回答者数）。

- ・ 「図書・雑誌が少ない、増やしてほしい」系  
学部学生 35 件（29.4%）、大学院学生 6 件（26.1%）  
（これらのうち、「卒論で切実」2 件、「借り出したいものが教員研究室で保管されていることへの不満」学部 3 件、大学院 5 件）
- ・ 「図書・雑誌が古い」系  
学部学生 19 件（16.0%）、大学院学生 7 件（30.4%）
- ・ 「寒い、暑い（空調設備の稼働時期を早めてほしい、を含む）」系  
学部学生 17 件（14.3%）、大学院学生 1 件（4.3%）

他方で、「現状のままでよいです」、「職員の方が親切で嬉しい。ありがとうございます」、「皆さん、頑張られています」、「開館日時やサービスがよくなって利用しやすくなった」、「使いやすいし、静かで良いと思う」、「身近に利用できる環境はありがたい。開館時間の長さも嬉しい。図書購入についての要望調査なども丁寧だと思う」、「教育新聞なども置いてあるので、役に立つ情報を手に入れることができる」等、積極的評価が学部学生 7 件、大学院学生 3 件ある。中でも、職員による対応サービス面については、Q56 での回答で「窓口サービスに不満が皆無であったことも考え合わせると、積極的評価が行われていると思われる。

休日開館の要望や開館時間に関する不満は、学部学生 20 件（16.8%）、大学院学生 2 件（8.7%）あった。附属図書館では、平成 17 年 4 月から、試験期間前 1 週間の日曜、祝日を開館（10 時～17 時）とし、夜間開館終了時刻を 22 時から 21 時に変更した。また、平成 18 年 4 月から、試験期間前 3 週間の日曜、祝日を開館（10 時～17 時）とした。これらの変更と関連する要望・意見も含まれている。